

【金沢区】令和3年第1回区づくり推進横浜市議員会議 議事録

開催日時	令和3年2月5日（金） 14時00分～14時50分
場 所	金沢区役所 5階1号会議室 (WEB会議形式で開催のため、座長以外の各議員はリモートで参加)
出席者	<p>【座 長】黒川 勝 議員</p> <p>【議 員：4名】高橋 のりみ 議員、竹野内 猛 議員、 谷田部 孝一 議員、小幡 正雄 議員、</p> <p>【金沢区：29名】永井 京子 区長、栗原 敏也 副区長、 木村 博和 福祉保健センター長、 千田 満 福祉保健センター担当部長、 松寄 尚紀 金沢土木事務所長、 伊藤 賢司 金沢消防署長</p> <p style="text-align: right;">ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和3年度 個性ある区づくり推進費 予算案について</p> <p>2 その他</p>
発言の 要 旨	<p>《1 令和3年度 個性ある区づくり推進費 予算案について》</p> <p>竹野内議員：先程の議員団会議でも、コロナウイルス関連の質問をしたが、救急隊の出動件数とその推移及び現状での課題について伺いたい。</p> <p>伊藤消防署長：横浜市内の救急隊の出動件数については、令和2年は12年ぶりの減少となっている。金沢区内も同様に10,883件で、昨年比692件、約6%の減少となっている。件数は減少しているが、コロナ禍に伴い救急搬送時の感染防止対策の徹底や、医療機関の決定に時間がかかる等、稼働時間は長くなっており、救急隊員の負担は増えている。これについては、消防局と状況を共有し協力体制で対応している。</p> <p>竹野内議員：消防団員は、金沢区は概ね充足しているが、全国的にはなり手不足が課題である。横浜市の来年度予算でも消防団の処遇改善が予</p>

発言の
要旨

定されているようだが、消防団員確保の取組について伺いたい。

伊藤消防署長：コロナ禍で思うような取組ができていないが、大学へのウェブによる説明会の開催や、消防団のチラシに QR コードを付けてホームページにアクセスしやすくし勧誘に繋げるなど、地道な広報活動を消防団と協力しながら行っている。今年度は 31 名入団していただき、561 名、充足率は 96.1%となっている。

竹野内議員：コロナ禍での生活支援事業について、住居確保給付金の申請は非常に増えているようだが、生活保護申請は 2 割増にとどまる要因が、国の制度であり、要件が厳しいからと申請を躊躇されていると思われるが、相談者の状況や対応の時に感じる課題について伺いたい。

井戸生活支援課長：生活保護申請に関しては、車や家屋など資産がある方は処分して生活に充てていただく旨の内容について説明を行っている。申請を躊躇される場合もあるが、コロナ禍の状況において厚生労働省から、弾力的な運用を行うよう通知も出ており、申請者の生活の状況に対応した運用を行っている。

竹野内議員：生活保護制度自体に不案内な方も多く、利用を躊躇する方も多いと聞くが、今回、区としてそのための予算も確保しているようだが、どのような周知を行うのか。

井戸生活支援課長：制度の周知を図るため、窓口配付用のパンフレットを生活支援課の窓口のほか区役所 1 階の広報ラックに配架した。来年度はウェブサイトにも馴染のない方にも情報が届くよう、啓発物品を作成し、民生委員や関係機関を通じて周知を図っていく。

竹野内議員：社会福祉協議会で行っている、生活福祉資金の貸し付けについての利用状況と課題についてはどうか。

井戸生活支援課長：5 月から 7 月については申請が急増、一旦、減少したが、冬以降また、増加している。1 月末の実績は緊急小口資金が 606 件で 1 億 716 万円、総合支援資金の初回申請は 403 件で 2 億 1365 万円、延長申

請が 215 件で 1 億 1,446 万円となっている。今回は特例として郵送申請を基本として受付けており、生活状況を詳しく聞き取りすることができず、就労支援や家計改善など本来の生活課題のアプローチまでは手が届いていないのが課題。

竹野内議員：高齢者や民生委員に向けた ICT 活用について、どのくらいの規模で、どのように実施するのか伺いたい。

大島高齢・障害支援課長：区民活動団体支援については、1～2 団体をモデルとして実施し、その後他団体への波及効果を狙い、ICT 導入の手引きを作成しようと考えている。民生委員向けの講座については、各地区から参加していただき、延べ 6 回の実施を予定している。それぞれの地区に持ち帰っていただき広めてもらうことを想定し、地区内の展開時には区の支援も視野に入れたい。

発 言 の
要 旨

竹野内議員：子育て応援講座について、事業の成果を高めていくために、具体的にどのような工夫をしていくのか伺いたい。

鎌田こども家庭支援課長：養育者に対し集団での遊びの中で、子供の発達の理解を促し、子どもへの対応を学ぶ場として、親子教室などを実施していたが、コロナ禍で中止、縮小となり、密を避けて講座方式として実施する。発達障害を前面に出さず、一般的な子育て講座のタイトルで開催し、1 歳 6 か月児検診で発達に対しフォロー対象となっている児童の家庭に、個別に案内することを考えている。乳幼児の発達に関し、発達障害の特徴などを促し、接し方の工夫について家庭の中で実践できる内容とし、養育者が落ち着いて受講できるよう配慮して行いたい。

竹野内議員：地域のつながりの維持や課題のある世帯への支援について、コロナ禍だからこそ着実な展開をお願いしたいが、区長としての決意を聞かせてほしい。

永井区長：このような状況だからこそ、地域のつながりは重要と考える。金沢区では地域支援チームで各連合を担当しているが、その中で課題を情報共有し、適切な支援に取り組んでいきたいと考えている。

発言の
要旨

高橋議員：障害者施設などの福祉関係の職員や地域の商店街の方々も、ICT 関連の知識やスキルが乏しい。そういった方々の勉強会等企画されてはどうか。

大島高齢・障害支援課長：障害者施設等で様々な課題を話し合う自立支援協議会では、緊急事態宣言の中でリモート会議を始めている。全ての施設ではないが、環境が整っている事業所等からリモートでの参加を試みている。まずは慣れていただき、積極的に勉強していただけるよう取り組んでいきたい。

城石地域振興課長：経済局から活動支援ということで、一時金などが交付され、機材の購入等行ったと聞いている。今のところ講座等をご用意していないが、意見等を伺いながら対応していきたい。

高橋議員：ごみ屋敷について、最近の状況を聞かせてほしい。

秋野福祉保健課長：前回の自主撤去後からまた、ごみが溜まってしまい、各局と区でカンファレンスをずっと行ってきた。当事者と密に意思疎通を行い、先日、当事者も含め、区内の各所属、総勢 30 名以上の職員と排出支援を行った。

高橋議員：この件に関し、ずっと関わってきた副区長からもお聞きしたい。

栗原副区長：平成 28 年にご本人が費用を負担して排出を行ったが、その後また、ごみが溜まってしまった。全庁を挙げて毎日、職員が当事者を訪問し、説得してごみを排出することができた。この状態が保てるよう支援していきたい。

高橋議員：関東学院の学生が FM ラジオを立ち上げようとしている。災害時の防災連絡網としても有意義だという視点のようだ。区としてこのような取組の支援は考えているか。

<p>発言の 要旨</p>	<p>永井区長：学生の皆さんが一生懸命に取り組んでくれているのは、大変有難い。金沢区は風水害が多く、ひとつでもそういったツールがあれば、その分、情報が行きわたるので心強い。どのような支援ができるか検討しつつ、学生の皆さんと一緒に取り組んでいきたい。</p> <p>高橋議員：ログ金沢の跡地について、現在は高齢者施設などが建設予定だ。残りの1,000㎡の土地について、近隣の住民からは高層な建築物でないものをと要望されている。この件に関して区長の受け止めはどうか。</p> <p>永井区長：該当の土地の活用については、現時点で未定である。要望書については、関係各部署と共有している。今後一緒に検討していきたい。</p> <p>小幡議員：先の議員団会議でも話があったが、これから新型コロナウイルスのワクチン接種が始まり、様々な課題がある。区と地域が一丸となって、ワクチン接種が円滑に行われるように、進めていただきたい。</p>
<p>備考</p>	